MIE GENERAL MEDICAL CENTER

臨床研修医研修案内

地方独立行政法人三重県立総合医療センター

臨床研修センター

Local Independent Administrative Institution

Mie Prefectural General Medical Center

☆病院見学については、随時受付けています☆

臨床研修センター担当者までご連絡ください。

TEL:059-345-2321（内線 2609） e-mail：rinken@mie-gmc.jp

（研修理念）

「人の痛みがわかり、相手の立場で考えられる」など医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学や医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、日常診療で頻繁に関わる病気や病態に適切に対応できるよう、医師としての基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につける。

（研修基本方針）

1　患者及び家族とのコミュニケーション能力を習得し、医師としての人格を涵養する。

2　全人的医療を実践することができるプライマリ・ケアの基本的診療能力を習得する。

3　チーム医療の一員としての役割を理解し、協調性をもってチーム医療を実践する。

4　医療安全を理解し、安全な医療を遂行する能力を身につける。

5　医療人としての倫理観を養成する。

（研修科の概要）

必修科目：内科、救急、外科、小児科、産婦人科

循環器内科

（１）診療科の特徴

救急疾患、慢性疾患に対して、地域連携も考慮しつつ、24 時間、365 日体制で臨みます。

（２）研修内容（アピールポイント）

心臓および脳をのぞく全身の血管に関わる疾患に対する最新の治療を体験できる。また基礎疾患となる高血圧、糖脂質代謝異常の管理も習得できます。血液透析も含みます。

呼吸器内科

（１）診療科の特徴

呼吸器内科医の少ない三重県にあって当科はスタッフがそろっており、指導体制が充実しています。呼吸器外科のバックアップ体制も完璧です。

またチーム医療を推進することで、医師のQOLにも配慮しています。

（２）研修内容（アピールポイント）

呼吸器内科は癌・感染症・アレルギー・集中治療など幅広いジャンルを包含しており、ここでの研修は臨床医としての第一歩を踏み出すのにふさわしいと考えます。

内科医は手技が出来るようになる事よりも、患者が診られるようになることの方が重要です。

消化器内科

（１）診療科の特徴

消化器疾患（消化管・肝・胆・膵疾患）全般について診療を行っています。標準的医療はもちろんの事、先進的医療を積極的に行っております。

（２）研修内容（アピールポイント）

消化器疾患を幅広く研修できます。また、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)、ラジオ波焼灼療法(RFA)をはじめとする先進的医療も学べる環境にあります。

脳神経内科

（１） 診療科の特徴

人口の高齢化やストレス社会の到来に伴い、脳血管障害（脳卒中）や認知症（アルツハイマー病など）、パーキンソン病、頭痛、末梢神経障害などのいわゆる common diseases の患者数が急増しています。そのため脳神経内科医のニーズが日に日に高まっています。これらの疾患は生活習慣病などの内科疾患とも密接に関連しており、一般内科の知識経験を踏まえた脳神経内科の研修が必要となっています。当院ではこのような状況に対応できるような脳神経内科の研修を目指しています。

また、当院は日本神経学会準教育施設の認定を受けています。

（２） 研修内容（アピールポイント）

１）脳神経内科医としての心得を学ぶ

患者の全人的理解、患者・家族との良好な信頼関係、医療チーム構成員としての協調性、医療現場での安全への配慮、事故発生時の適切な対応を身につける。

２）神経学的診察法を習得し、病変・疾患を推察する。

意識、高次機能（認知症、注意障害、失語、失行、失認）、脳神経、運動機能、反射、感覚、自律神経、髄膜刺激徴候のみかたが習得でき、病変・疾患を推察する。

３）神経学的検査（「手技の習得」の項参照）を理解し、検査実施、結果判定を行う。

４）神経疾患の治療に携わる。

①脳・脊髄血管障害の治療（抗凝血療法、血栓溶解療法、抗血小板療法）
②炎症性神経疾患の治療（γグロブリン大量静注療法、ステロイド療法）
③変性神経疾患の治療
④痙攣疾患の治療
⑤不随意運動の治療（服薬治療、ボツリヌストキシン注射）
⑥栄養摂取方法取得（経鼻経管療法、経皮内視鏡的胃瘻造設術、中心静脈栄養）
⑦呼吸管理（気管内挿管、人工呼吸器装着、気管切開術）

救急 （救急・集中治療科）

（１） 診療科の特徴

二次三次救急を担う救命救急センターです。専従医師がいて、専従以外の全医師が兼任医師として勤務する病院併設型の救命救急センターです。県民の生命を守る使命感を持った救急医療のみならず集中治療専門研修施設として二次・三次救命処置後の集中治療を行います。また、基幹災害拠点病院としての活動をし、DMAT 活動も支援しています。

（２） 研修内容（アピールポイント）

救急搬送もしくは walk in の救急患者の初期救急を担当します。初期診療後は各専門

の兼任医師に治療を受け継いでもらいます。将来どんな科を専攻しても担当患者が急変することに遭遇します。その急変時の初期対応を確実に行える skill を身につけます。
北勢地区の小児救急、産婦人科救急も担っています。
一次、二次、三次救急をバランスよく研修できます。

外科 （消化器外科　小児外科　乳腺外科）

（１）診療科の特徴

当科は常勤スタッフ＋初期研修医で消化器外科疾患、小児外科疾患、乳腺疾患、外科系救急の診療に携わっています。スタッフの中で日本外科学会専門医 8 人、日本消化器外科学会専門医 6 人、消化器病学会専門医 4 人、日本大腸肛門病学会専門医 4 人、小児外科専門医 1 人、乳腺外科専門医 3 人、マンモグラフィー読影認定医 3 人などとなっており、市中病院では県内有数の人的構成が整備されています。

（２）研修内容（アピールポイント）

消化器癌、乳癌の診療において、各種の癌治療ガイドラインに準拠しつつ、新技術や新コンセプトを学会・研究会で学び、日々の診療に生かしています。食道癌、胃癌、大腸癌、胆石症、虫垂炎、腸閉塞、鼠径ヘルニアを対象に、腹腔鏡下手術を積極的に行っており、食道癌、早期胃癌、大腸癌、胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニアは第一選択が腹腔鏡下(鏡視下)手術です。消化管癌のうち早期癌では消化器内科と密接に連携し内視鏡治療(EMR, ESD)の適応症例を検討しています。乳癌診療では、乳腺専門外来を週 3 回設け乳房温存療法、センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清省略を実施し QOL 向上に貢献しています。

小児外科診療では、鼠径ヘルニア、停留精巣をはじめとする手術だけでなく、小児科とともに様々な小児医療にあたっています。

外科診療の向上は患者の QOL 改善のためにあり、退院後のより良い生活を最終目標としています。そのために当院では外科を中心に緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、が整備されておりそれらも実践できます。当科では各部署のスタッフと協力しチーム医療を重視しています。外科研修では上級医、後期研修医とともに個々の患者の QOL 向上のための小児から成人までの外科診療を学べます。

小児科

（１）診療科の特徴

当院小児科は、三重県北勢地域の小児診療の拠点で、小児科医師数も北勢地区最大となっています。一般小児科では救急疾患から慢性疾患まで対応しています。

一般病棟は35床あり、ほぼ1フロアーが小児科専用の病棟となっており、他科における小児患者や入院患者も対応しています。入院患者は、症例も慢性疾患から人工呼吸や脳低温療法等の集中管理を要する児まで多岐にわたります。また県内の他病院

との連携も取れており、手術を要するような先天性心疾患や血液腫瘍疾患についても、三重大学との連絡はスムーズです。新生児については、NICU6床＋GCU12床で院内および他院から搬送される未熟児、病的新生児に対応しています。

（２）研修内容（アピールポイント）

当院では研修医の教育は重視されており、毎日行われる病棟カンファレンス、NICUカンファレンスにくわえ、院内での抄読会、レントゲンカンファレンスも毎週定期に行われています。また、学会発表も重視し、小児科学会東海地方会、小児科医会等に毎回演題を出すようにしています。あるいは三重大学との症例検討会等も定期的に行われています。また、休日は完全当番制を敷いており ON-OFF をはっきりさせることに留意しています。

産婦人科

（１）診療科の特徴

当科では、産婦人科疾患全般を診療対象としていますが、三重県がん診療連携準拠点病院および地域周産期母子医療センターの指定を受けています。婦人科悪性腫瘍の治療、ハイリスク妊娠の治療、腹腔鏡手術を中心に診療を行っています。

高齢化に伴う疾患として子宮脱、子宮下垂の症例が増加傾向にあり、保存的治療（外来）・手術（入院）を行っています。

平成 25 年 4 月から NICU（新生児） 棟が完工・オープンしました。それに伴い母体搬送も積極的に受けています。

（２）研修内容（アピールポイント）

初期臨床研修で経験しなければいけない疾患は精神科と地域研修を除き単独で行うことができます。産婦人科の最先端の治療に接することができます。また、指導医・上級医はやさしく教え共に学びたいという気持ちでいます。

病院で定めた必修科目

麻酔科

（１）診療科の特徴

麻酔科の主な仕事は、手術室における麻酔である。いかにして患者の安全を守りながら、手術を終了させるか。そしてその管理は周術期の全身管理の重要な一部となっている。高齢化、医療の多様化により、必要度は増々高まっている。

（２）研修内容（アピールポイント）

原則として２か月以上の研修で、気管内挿管、用手人工呼吸、ルート確保とい

ったプライマリーケアに必要な治療技術を学ぶ。３か月以上のコースでは、硬膜外麻酔を含め、指導医の監視下ではあるが一人で麻酔管理できることを目標にする。

自由選択科目

整形外科

（１）診療科の特徴

当整形外科は、北勢地区の関節外科の中心病院としての役割と、地域の三次救急病院としての役割の二つの面をもっています。特に力を入れている関節外科・スポーツ障害の治療において、内視鏡手術では膝関節を中心に肩、肘、足関節などにも対応し、半月板切除や縫合、関節鏡下膝関節靭帯再建術などを積極的に行っています。また、三重県初の自家培養軟骨移植術が可能な認定施設となっており、通算４２例と全国8位の症例数となっています。関節外科のもう一つの柱は変形性関節症に対する治療です。膝関節では人工関節は人工単顆関節置換術（UKA）と全関節置換術（TKA）を症例に応じ行っており、また、若年者では脛骨高位骨切り術（HTO）も適応により行っています。股関節では人工股関節全置換術（THA）を主にセメントレスタイプを用い行っており、高度破壊例では臼蓋プレートを使用し再建しています。また、三次救急病院のため多発外傷をはじめ、多数の骨折例を加療しています。

（２）研修内容（アピールポイント）

多数の骨折治療症例があるため、その初期対応や治療方針等の考え方が身に付きます。関節外科に特化しているため他の病院では経験出来ない様な専門的な治療に携わることが出来ます。また、研修期間により執刀医として標準的な四肢骨折手術や大腿骨転子部骨折の骨接合術、大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術などを経験することが出来ます。

脳神経外科

（１）診療科の特徴

当脳神経外科は、急性期血栓溶解療法を含めた脳卒中の急性期治療、脳腫瘍、脳機能的疾患、脊椎脊髄疾患、脊椎および頭頸部外傷の外科的治療を中心に行っております。

当院では、救命センターを併設しており、重症疾患の初期治療から、難易度の高い手術治療まで、幅広く行っております。また、高齢化社会に伴い脊椎変性疾患の治療が増加しており、安全で低侵襲な外科治療を導入しております。

（２）研修内容（アピールポイント）

①急性期脳卒中（保存的治療、外科的治療、脳血管内治療）から予防的外科治療

②標準的脳腫瘍治療から頭蓋底外科を応用した難易度の高い脳腫瘍外科手術
③脊髄腫瘍を含めた多彩な脊髄脊椎疾患の保存および外科治療
④救急専門医と連携しながらの重症外傷患者の治療

泌尿器科

（１） 診療科の特徴

泌尿器科は、尿路（腎臓、尿管、膀胱、尿道）と、男性生殖器（精巣、前立腺など）を扱う外科系診療科です。当科が専門とする泌尿器疾患は、尿路・性器腫瘍（膀胱癌、前立腺癌、腎細胞癌、精巣癌）、前立腺肥大症、過活動膀胱（神経因性膀胱）などで、高齢男性が多数を占めますが、もちろん女性や小児も診療の対象です。

悪性腫瘍に対しては、手術療法のみならず、標準的全身化学療法や分子標的薬治療も積極的に行っています。当院には体外衝動波結石破砕装置(ESWL)が導入されていないため、尿路結石の 90%以上をしめる上部尿路結石は、四日市羽津医療センターと連携し、治療を行っています。

現在の泌尿器科のスタッフは、常勤医４名の体制です。毎朝 8:30 に始まる部長回診後、火曜（外来休診として終日）と木曜午後が手術日に、そのほかの日は 2 診制の外来になっています。泌尿器科的処置のほとんどは月・水・金曜の午後に行います。

（２） 研修内容（アピールポイント）

当科での研修では、泌尿器科領域における common disease を中心に診断法、治療法を習得することを目標にしています。

具体的には、入院管理を要する疾患では、膀胱癌（経尿道的手術や全身化学療法）、腎細胞癌（開腹手術や分子標的薬治療）、急性腎盂腎炎、急性腎後性腎不全などが中心で、研修中は、これらの症例を受け持つことが多いと思われます。外来では、前立腺癌（内分泌治療）、前立腺肥大症、膀胱炎、尿路結石（急性期対応）などが多く、その外来検査・診療について学びます。また、外来では、産婦人科、外科と協力し、各科術前の尿路確保のための処置などを行います。

私達は、「患者さんとの信頼関係」を念頭に、どの様な診療を行ううえでも、十分な説明と情報提供を行い、適切で質の高い「尿路と QOL を守る」医療を提供したいと考えています。そのためには疾患の医学的理解のみならず、その人の立場に立って考え、行動することが重要です。当科は、腹腔鏡下手術については未導入で、小児先天性異常に対する手術や、腎不全治に対する腎移植など、ある特定の分野に特化した手術は行っていませんが、泌尿器科における基礎的・標準的な考え方・診療手技の習得は、外科医のみならず、内科医を志す先生方にとっても必ず有益なものとなると考えています。

心臓血管外科・呼吸器外科

（１）診療科の特徴

臨床医として将来確実に経験すると考えられる当科領域の疾患、虚血性心疾患、弁膜症、大血管疾患、肺腫瘍など、代表的な疾患の診断と治療を経験することができます。

（２）研修内容（アピールポイント）

心臓血管外科で扱う疾患には緊急対応が必要な疾患も多く、初期対応を誤れば命に係わるものも少なくありません。このため将来の専攻にかかわらず、心臓血管疾患、呼吸器疾患に対して迅速に診断・初期治療を行い、的確に外科治療の必要性を判断できる知識・技能を経験・習得することが可能です。何事も経験することが重要で、当科における手技的なものは全て経験してもらうよう指導いたします。

皮膚科

（１）診療科の特徴

当科は日常で誰もが経験するような湿疹皮膚炎群から、皮膚感染症、熱傷、皮膚潰瘍、皮膚腫瘍、自己免疫性皮膚疾患、全身疾患に伴う皮膚病変など、皮膚に関する全般的な診療を行っています。外来診療が中心ですが、小腫瘍の摘出手術、中等症の入院加療も行っています。また近年高齢化社会により増加している褥瘡は、皮膚科を中心に院内外関係部署、他部門多職種と連携し、治療や退院後の環境調整にあたっています。

（２）研修内容（アピールポイント）

現在常勤医 1 人で診療を行っており、研修医の先生には、即戦力として活躍してもらっています。他科ローテート中に培った全身を診る力、経験、知識、技能を、即皮膚科受け持ち患者に応用しながら、皮膚科的な局所管理、処置、手術手技を実践・修得できます。

放射線科（放射線診断科　放射線治療科）

（１）　診療科の特徴

放射線診断科では、各種画像診断や血管造影・IVR を施行しており、画像診断および血管造影・IVR について研修する。

放射線治療科では、放射線治療（通常照射および定位照射などの高精度治療）について研修する。

（２）　研修内容（アピールポイント）

① 検査実習：CT・MRI・RI・超音波検査などにおいて撮影現場の見学・体験に基づき、

MIE GENERAL MEDICAL CENTER

その原理・方法を学び、画像診断の理解を深める。

② 画像診断・読影演習：実際の患者の画像を一次読影する。さらに、同じ画像を専門医に二次読影してもらい、読影能力の向上を図る。

③ 実技演習：血管造影・IVR に指導医とともに加わり、実際に実技を行う。

④ 症例検討会：教科書的な症例を読影することで、基本的な読影能力を身につける。また、他科との症例検討会に参加し、臨床的理解を深める。

⑤ 目標として、救急外来にて施行する CT 検査の読影能力の向上を目指したい。

⑥ 放射線治療の適応・効果・合併症を理解し、がん治療に携わる際に集学的治療の一つである放射線治療について検討できることを目指す。

眼科

（１）診療科の特徴

平成26年1月からは最新のパターンスキャンレーザー装置を導入しました。 角結膜疾患：点眼治療のみでなく、塗抹鏡検・培養・血清点眼等の特殊検査および治療に も対応します。 緑内障：光干渉断層計 (OCT)と精密視野検査による綿密な病期判定を行なったうえで点眼 薬・内服薬・レーザーによる治療を行ないます。 糖尿病網膜症・網膜血管閉塞性疾患・網膜裂孔：レーザー治療を中心に対応します。 ブドウ膜炎・視神経炎：点眼、内服治療が主ですが、入院による薬剤点滴治療にも対応し ます。 平成25年7月1日、日本眼科学会専門医制度研修施設の認定を受けました。

（2） 研修内容（アピールポイント）

現在常勤医 1 人で診療を行っており、月曜日から金曜日までの午前の一般診療、月、水、木、金曜日の午後の予約診療を行なっております。研修医の先生には、即戦力として活躍してもらいます。他科ローテート中に培った全身を診る力、経験、知識、技能を、即眼科受け持ち患者に応用しながら、眼科的な局所管理、処置、手技を実践・修得できます。

耳鼻いんこう科

（１）診療科の特徴

当科は日常誰もが救急外来や通常外来で遭遇する疾患すなわち、耳（難聴・眩暈・中耳炎）、鼻（鼻出血・鼻骨骨折・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎）、咽喉頭（扁桃炎・扁桃周囲膿瘍・急性喉頭蓋炎・反回神経麻痺・嗄声）など耳鼻咽喉科に関する全般的な診療を行っています。また、頭頸部外科疾患に関しては、診断を重視し、甲状腺 FNA 検査を行っております。また近年高齢化社会により増加している嚥下困難に対しては、院内嚥下チームと連携し、嚥下ファイバー検査を行っております。

（２）研修内容（アピールポイント）

現在常勤医１人で診療を行っており、研修医の先生にはまず基本的耳鼻咽喉科診察手技（耳鏡検査・鼻鏡検査・鼻咽腔ファイバー検査・嚥下ファイバー検査・純音聴力検査、CCD カメラ赤外線眼振検査）等を習得していただきます。入院症例については、局所所見や画像診断、全身状態を把握し、適切な治療方針を決定できる力を身につけます。

また、電気味覚検査、嗅覚検査も見学可能です。

病理診断科

（１）診療科の特徴

病理診断科では、病理専門医１名と５名の臨床検査技師（うち細胞検査士３名）のスタッフが、生検検体および手術摘出検体の病理組織診断、術中迅速病理診断、細胞診、病理解剖を担当しています。また、各診療科医師との症例検討や臨床病理検討会（CPC）、細胞検査士との細胞診精度管理カンファレンスを随時行っています。

当科は、北勢地区の基幹病院の一つとして幅広い領域の臓器検体を取り扱っています。そのため稀少症例や診断困難症例も少なくなく、主として三重大学病院病理部に協力を得ながら診断業務を行っています。

（２）研修内容（アピールポイント）

病理専門医を目指すための研修はもちろんのこと、希望する診療科に関連する臓器に絞った研修や２週間から１ヶ月程度の短期研修も可能です。

日常業務を通して病理標本の作製から診断までの流れを把握していただき、典型症例の検鏡・診断を体験してもらいます。病理解剖にも参加し、臨床医として必要な人体構造や形態変化を通じた病態の理解を深めてもらえることを目標とします。